

# 大学生活とキャリア意識の向上を支援する CC 手帳の開発とその効果 (第二報)

伊藤 征嗣\*・岡 浩平\*・田中 健路\*・内藤 望\*

(平成26年10月30日受付)

## Assessment of the Pocket Book for Supporting Campus Life and Career Development (The second report)

Seiji ITO, Kohei OKA, Kenji TANAKA and Nozomu NAITO

(Received Oct. 30, 2014)

### Abstract

The aim of this study is to develop and assess the CC pocket book, supporting Campus life and Career Development for our department students. The CC pocket book contains various things on campus life and study goals, schedule management, jobs information of our department, and so on. The third editions had been published in the current fiscal year, and distributed to our department students. We took the questionnaires of the CC pocket book for the students as the usage survey. As the result, more than half of students have been using it after one year from distribution. A significant percentage of students would like to recommend the CC pocket book for younger students. Although there remain some actions to promote of utilization, but we have shown the effectiveness of the original pocket book for the students.

**Key Words:** Campus life, Career Consciousness, CC Pocket Book,

### 1. はじめに

学生が将来の夢や目標を意識して生活することは大切であり、それを達成するには初年次から卒業までを視野に入れたスケジュール管理やポートフォリオの利活用が重要である。スケジュール管理ツールとして他大学では PDA (Personal Digital Assistants) やポートフォリオを意識した独自の手帳を配布している。本学でも初年次教育としてキャリアデザイン I 等の講義での教育・指導、Gmail の付加機能であるカレンダー機能が提供されている。しかし、PDA は高価であり配布が難しく、PDA を所持していない学生には Web コンテンツによる指導も困難である。そこで、ポートフォリオを意識した独自の手帳の発行はスケジュール管理だけでなくポートフォリオのツールとして常

時携帯が可能となる。さらに、その手帳に就職情報等を付加することで、初年次からキャリア意識を向上も図ることも期待できる。

そこで、本研究は地球環境学科の学生が充実した生活を過ごすためのツールとして、4年後を見据えた予定を組める CC (Campus life and Career) 手帳を発行・配布し、個々の学生の生活目標を計画・実践できると同時にスケジュール管理能力とキャリア意識を向上させることが目的である。特に、地球環境学科の学生は就職業界が一つに定まっておらず多様な業界に就いている。そのために、学内他学科と比較して、学生が志望企業を絞るまでに時間がかかる特徴がある。よって早期からのキャリア意識向上がより切実な課題となっている。

そこで、従前より学科オリジナル手帳として CC 手帳

\* 広島工業大学環境学部地球環境学科

(Campus Life and Career) を配布してきた<sup>[1]</sup>。今年度も引き続き、第三版を発行し、追跡調査を行ったので、その調査結果を報告する。一方、昨年度より本学就職部が3年次生を対象としたオリジナル手帳を作製・配布されている<sup>[2]</sup>。その手帳の影響も踏まえて本稿で報告する。

## 2. CC手帳の概要

### 2.1 内容

CC手帳は当然ながら学生にとって便利で使い易いものが望ましい。さらに、第一章で述べたように、充実した学生生活ならびにキャリア意識を向上させるためのツールを目指す。また、他大学の事例を参考に手帳の開発を行った。

検討の結果、CC手帳は4年間継続して利用できるよう、中身の取捨選択が容易なルーズリーフ式のものを作製する。さらに、常時携帯できるよう、持ち運びに便利なポケットサイズのものを作製することにした。表1は主なコンテンツを示す。

今年度配布した第三版の内容は第二版まで設けていた自己発見レポート記録欄を削除した。これは、第三版を開発していたH26年1月の時点で自己発見レポートをH26年度は実施しない可能性があったことから、この欄を削除した。しかし、結果的にはH26年度も自己発見レポートは実施されたので、来年度以後は復活を検討する。また、入学目的や年間目標の記述などは、HIT-Studentを参考に作成していたが、H25年度に書式の変更を確認したため、第三版もこれに合わせた<sup>[3]</sup>。さらに、卒業生の就職先一覧についても、H25年度卒業生実績を出来る限り反映させた。

このように、第三版は第二版から大きな変更点は無い。それは初報で報告したとおり、内容的には概ね学生にとって満足した手帳となっていたことが挙げられる。

表1 CC手帳の主なコンテンツ

① 表紙など
② 入学目的、年間目標、自己発見レポート記録欄など
③ 月間スケジュール・各学年各月のアドバイス
④ 教育課程表と各種資格要件対応表
⑤ 資格試験一覧、卒業生の就職先一覧
⑥ 21, 24号館配置図
⑦ 各教員連絡先一覧、便利なサイト集など



図1 作製したCC手帳

### 2.2 配布対象学生

H24年度後期開始時期であるH24年9月24日にCC手帳の初版を1年次生の上に配布した。さらに、第二版としてH25年度版を発行し、1・2年次の新入生・在生学生ガイダンスに配布してきた。そして、今年度の配布対象学生は、本学科の1年次生から3年次生の学生とした。また、1, 2年次生には全員に配布し、3年次生には希望者のみに配布した。元々、CC手帳は低学年に対して重点を置いたものであること、そして、3年次生はCC手帳だけでなく就職部の手帳も配布されるため、選択の幅が増えることから、希望者のみとした。今年度、第三版の配布を希望した3年生は、69名中41名であった。

## 3. アンケート結果

1年次から3年次までアンケート調査を行った。アンケートはすべて記名式とし、3年次生に対してはこれまでに下記に示す日程で5回実施し、利用状況の把握と今後の改善点の調査、さらに、学生への指導を兼ねて行った。他にも、使用した感想や改善を問う質問も行った。

- 第一回目  
実施日時：平成24年11月26日  
回答数：67名(対象学生75名)
- 第二回目  
実施日時：平成25年1月21日  
回答数：70名(対象学生75名)
- 第三回目：  
実施日時：平成25年7月23日  
回答数：65名(対象学生73名)
- 第四回目：  
実施日時：平成26年1月15日  
回答数：60名(対象学生73名)
- 第五回目：  
実施日時：平成26年10月  
回答数：49名(対象学生67名)

これらのアンケート調査は1年次生と2年次生にも行っているが、H24年度入学生と類似した調査結果が得られているため、本稿では掲載を省略する。

また、第五回目は授業などを利用せず一斉に調査を行わなかったため、回収率が下がっている。他の回と比較しても、回答数が少ないので、他の回との比較には注意が必要である。

### 3.1 CC手帳の利用状況

まず、CC手帳の利用状況について説明する。図2にその利用状況の推移を示している。ただし、グラフ中の実数は回答人数を示す。この図から利用している割合が月日を重ねるにつれ、低くなっている傾向がある。第五回目のアンケートでは、利用率の割合がかなり低くなっている。これは、就職部発行の手帳も配布され、それを利用していた学生が増えた影響だと考えられる。また、第五回目でCC手帳と就職部発行手帳との利用状況を比較する。図3にはどんな手帳を使っているかの回答結果（複数回答可）であり、図4にはCC手帳と就職部手帳との利用形態の回答結果である。図3からCC手帳と就職部手帳の利用者はそれぞれ13名と9名であった。また、図4から両手帳ともある程度の人数の利用者がいることが分かる。このことから、3年次生は個人の利用しやすさに応じて使い分けられていることが分かり、このことによって利用者が減少したものと考えられる。

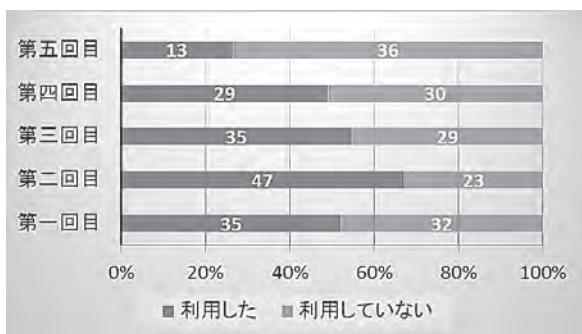


図2 CC手帳利用状況の推移

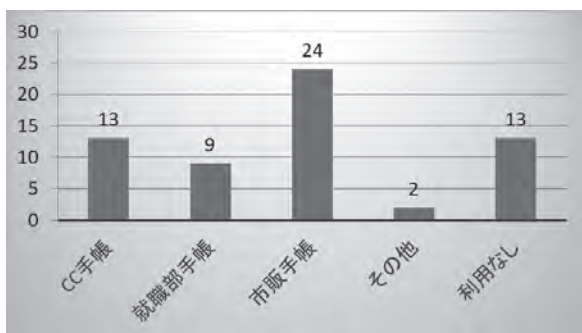


図3 利用している手帳（複数回答可）

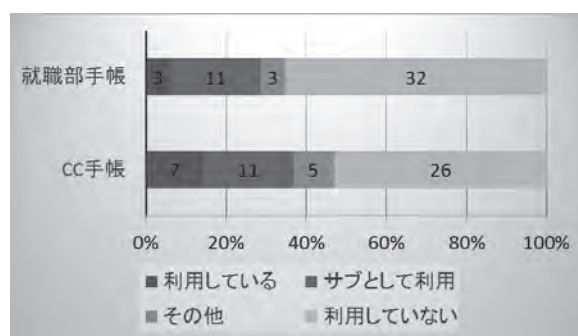


図4 CC手帳と就職部手帳の利用形態

### 3.2 年間目標などの記述欄利用状況

つぎに、年間目標などの記述欄の利用状況について説明する。図5に第四回目と第五回目の結果を示す。この図より、ほとんどの学生が目標などの記述欄を利用していないことが分かる。3.1節の結果から、ある程度のCC手帳利用者がいるにも関わらず、著者らの目的の一つである目標を明確化して大学生活を送って欲しいという狙いが徹底されていない結果と言えなくもないが、むしろ3年次となりマンネリ化してわざわざ記述しなくなった学生が多いのかもしれない。今後の手帳作成に当たっては、上級生のマンネリ化を避ける何らかの工夫が必要かも知れない。

図6には、月間スケジュール帳に記載している各学年のコメントを読んだかどうかの回答結果である。これも利用率の減少に比例して、読んでいない学生が多いことが分かる。

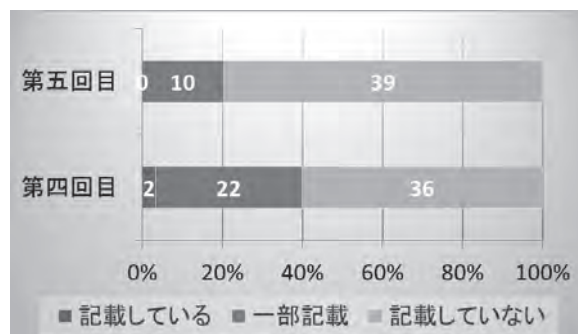


図5 年間目標などの記述欄の利用状況

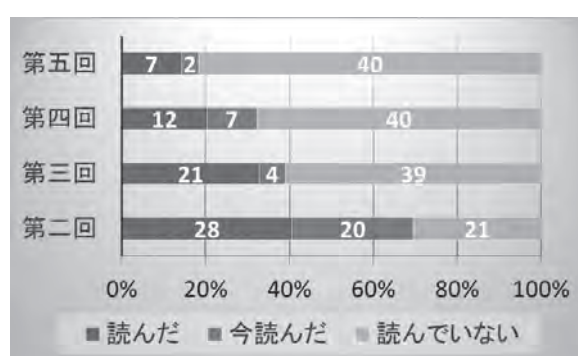


図6 当月のコメントを読んだか



### 3.3 CC手帳の効果に関して

本節では、CC手帳の効果について説明する。図7から図9は勉学面、生活面、そして、就職面に対して役立ったか否かの回答結果をそれぞれ示す。これらの図より、利用率の減少に比例して、「役に立った」という回答がどの結果も減少していることが分かる。しかし、「ある程度役に立った」まで含めて見ると、勉学面と就職面では半数以上の学生が役に立ったと回答している。図4からは半数以下の学生がCC手帳を使っていないにも関わらず、このような結果が出たということは、CC手帳の効果が使わなくなった学生にも浸透していることが分かる。すなわち、CC手帳の有益さを認識しているにも関わらず、使いやすさなど別の理由で他の手帳に移行したものと考えられる。

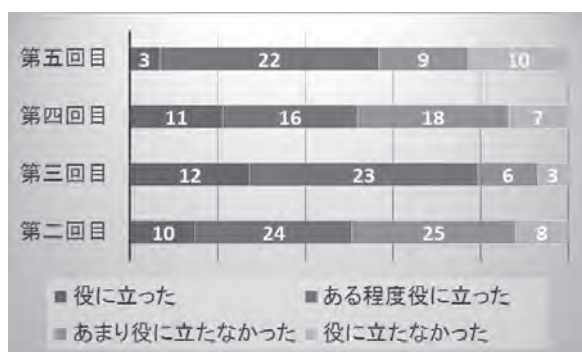


図7 勉学面で役に立ったか

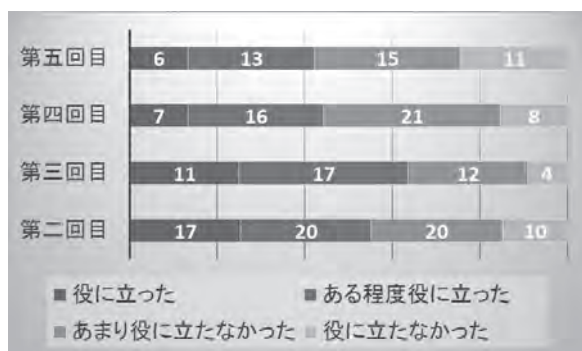


図8 生活面で役に立ったか



図9 就職面で役に立ったか

図10と図11に今後CC手帳を利用したいか、後輩へCC手帳を薦めたいかという回答結果をそれぞれ示す。後輩へ薦めたいかは第五回目のみ設問項目を設けた。図10からも半数以上の学生が自分でも利用をしていきたい思いがあると理解でき、さらに、図11からも後輩に薦めたいほどCC手帳の効果があることが分かる。ただし、実際に利用させる指導を改めて考える必要がある。

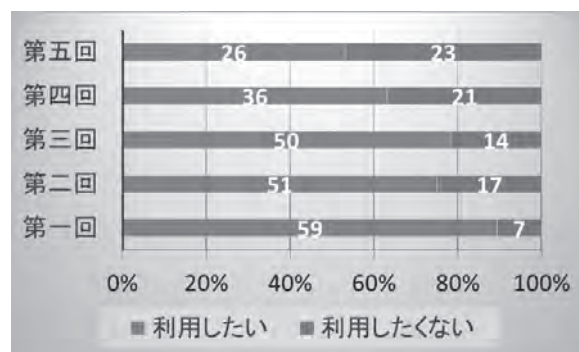


図10 今後CC手帳を利用したいか

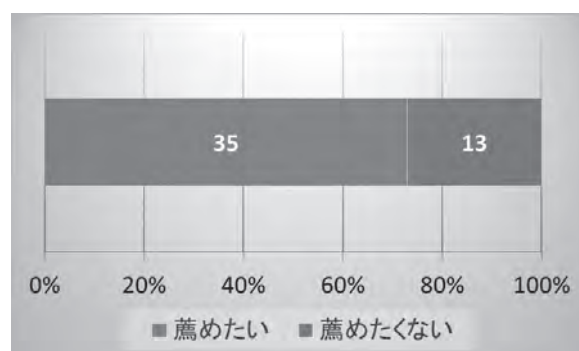


図11 後輩へCC手帳を薦めたいか (第五回目)

### 3.4 キャリア意識に関する効果

最後に、第四回目のアンケート時に就職意識に関する調査を行ったのでその結果を示す。図12はCC手帳を見て就職したい企業は見つかったか、図13には企業の情報を調べたことがあるか、図14には各種資格について受けたことがあるかの回答結果である。この図のように、2年次の冬の時点でキャリア意識がある程度芽生え、それを実行に移した学生が一定数いることがわかった。このように、CC手帳にはキャリア意識の向上に効果がある程度あったといえる。ただし、それが実際の就職に結びつくかどうか重要であり、今後も引き続き追跡調査を行う必要がある。また、その効果を低学年にも伝え、CC手帳への意識を強くさせることも今後の課題として挙げられる。

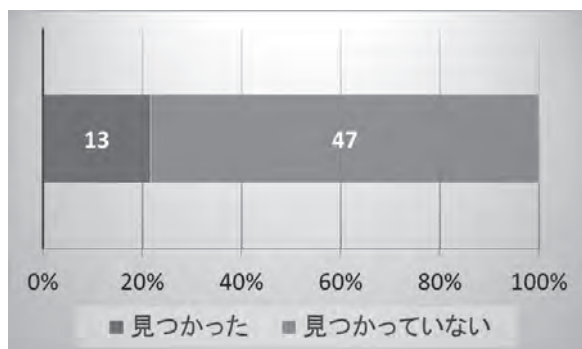


図 12 就職したい企業は見つかったか（第四回目）

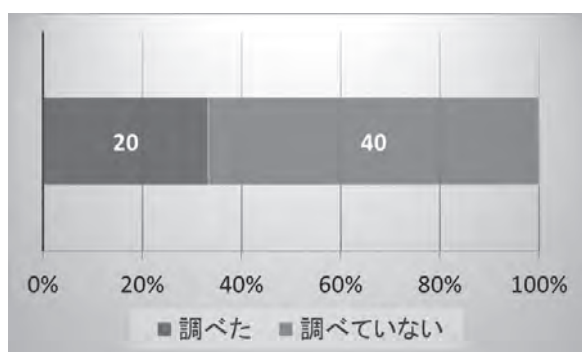


図 13 企業の情報を調べたことがあるか（第四回目）

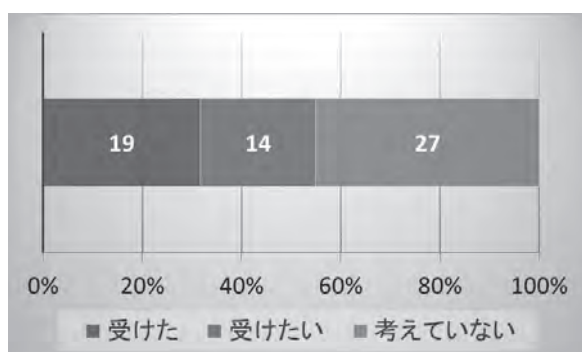


図 14 各種資格を受けたか（第四回目）

#### 4. おわりに

本研究では学生の生活やキャリア意識の向上のために学科独自の CC 手帳を第三版まで作製・配布し、3 年次生を対象とした利用状況の経年的な変化を中心に調査した。その結果、時間の経過による利用率の減少は顕著に見られた。ただし、学生自身は CC 手帳が有益なものであることを理解しており、積極的に使って行きたい人も多い。現在の CC 手帳の内容や性格を考えれば、1～2 年次のうちにその狙いが浸透さえすれば、3 年次では卒業して利用されなくなっても当然かもしれない。学年進行を考慮した手帳バージョンの拡張開発でマンネリ化を防ぐか、そもそも初年次に特化した手帳であると割り切るか、就職部手帳との連携を含めて、今後も引き続き利用実態を調査しながら、検討していく。

#### 謝 辞

本研究は平成 24、25 年度に広島工業大学プロジェクト教育開発センターで遂行したものです。H26 年度は地球環境学科の全面協力の下、実施いたしました。多くのご協力を頂いた地球環境学科教職員に厚く御礼申し上げます。

#### 参考資料

- [1] 伊藤, 岡, 田中, 内藤, 「大学生生活とキャリア意識の向上を支援する CC 手帳の開発とその効果」, 広島工業大学紀要教育編, Vol. 13, pp.1-8 (2014)
- [2] 広島工業大学就職部, 「PLACEMENT GUIDEBOOK」(2013, 2014)
- [3] 広島工業大学, 「HIT-STUDENT (2013 年度版)」

